



ミュージアムロード：
北は原田の森ギャラリー、南は県立近代美術館に至る南北ルート

- Problems & Issues -

- ① ・ JR沿線が南北を貫くミュージアムロードを分断する問題
・ ミュージアムロードを塞ぎ東西横断する車両交通量の多さ
- ② ・ JR- 阪神間の歩道空間の狭小さと並木スペースの欠如
- ③ ・ ローカル地方都市ゆえに情報発信の欠如、など



・ Vision concept & Solution

■ 創造性

- ・ 芸術・文化の香りが放つ神戸らしさを演出するため独自のKEYカラー、ブルーグリーン色で統一する構想です。それはミュージアムロードと交差する往来の激しい東西道やJRで南北に分断する問題解決にも繋がるものです。
- ・ 春秋に美しい並木道や芸術情報発信で他の地域と差別化し独自の魅力を創出することで価値向上に貢献します。

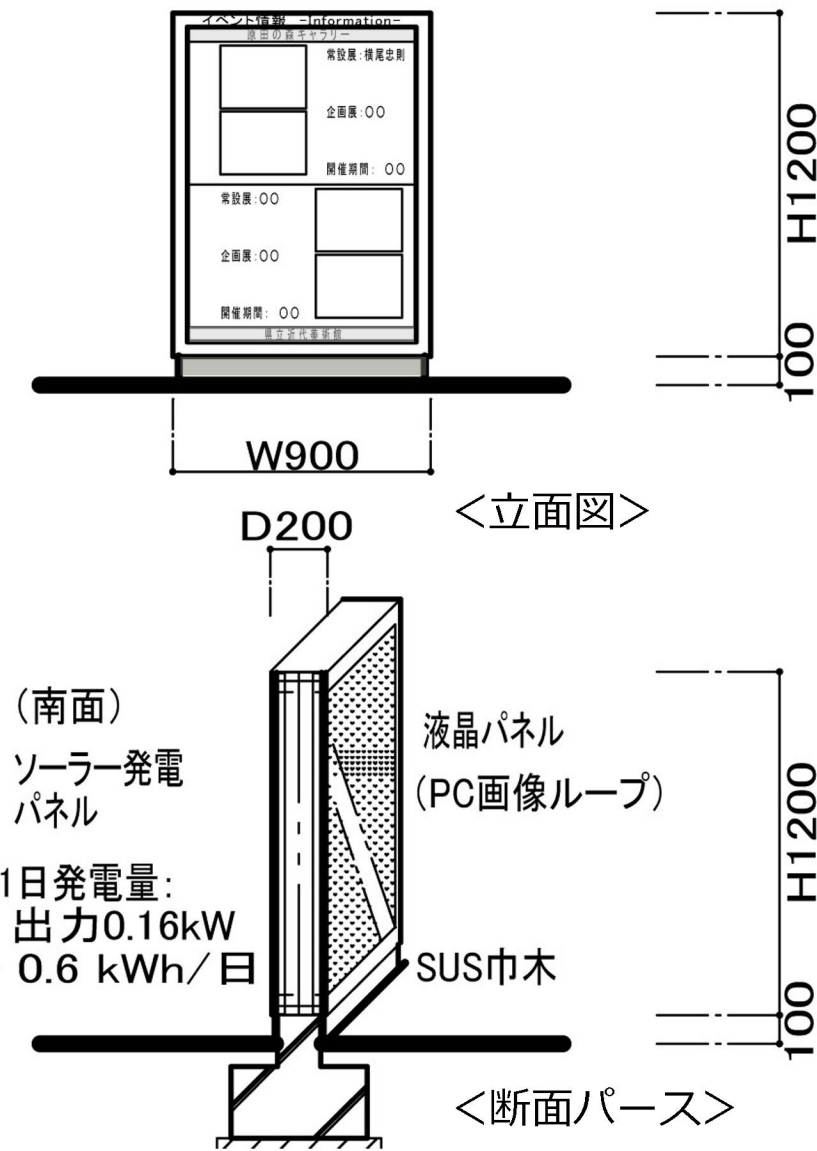
■ デザイン性

- ・ KEYカラーのブルーグリーンには光の色と舗装の色に融合させており期待感と特別の意味合いを持たせています。
- ・ 春と秋に美しい並木道を整備し、夜はLED豆球を散りばめたブルーグリーンは他のエリアと差別化します。

■ 機能性

- ・ 着色舗装された公道は春、「灘のだんじり祭」や秋「アートウィーク」に歩行者天国となるよう想定しています。事前に所轄警察署交通課で道路使用許可を取得し、ドライバーには注意喚起を促し協力を仰ぐ構想です。
- ・ 太陽光発電をバックパネルにもつ自立型インフォメーションボードは、2つの美術館の展示案内を行い、展示写真を連携させ毎日アップした生の情報をリアルタイムで流すことで、歩いて行きたくなるお洒落な街、今感を演出するトキメキの感じられる仕掛けで街機能を高めてまいります。

- ・ 2つの美術館の開催展示案内：
日毎に変わる展示作品の生の情報発信



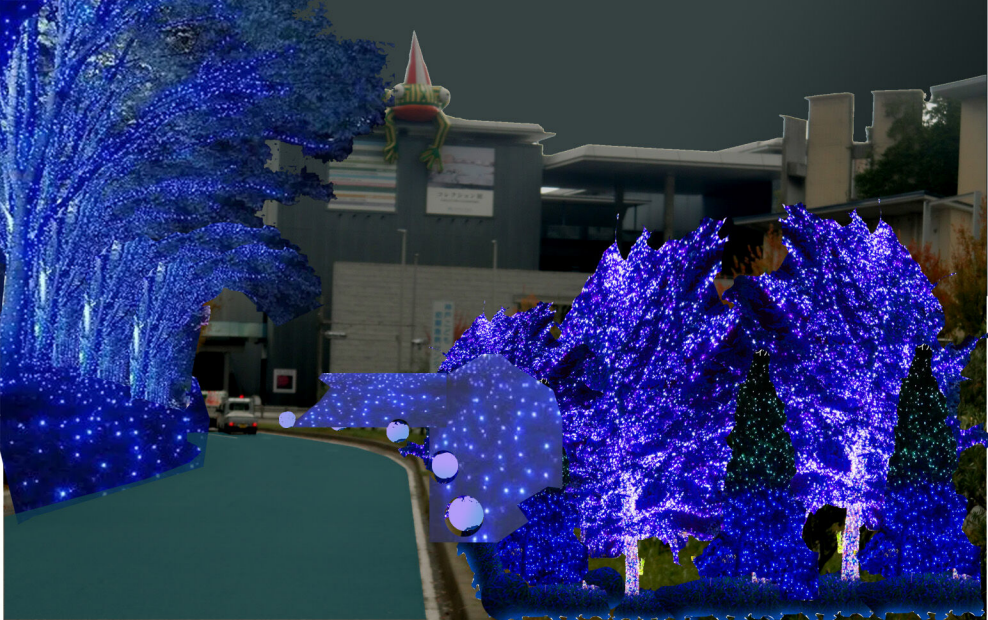
- ③ : 情報盤 インフォメーションボードの構築
設置場所：JR 灘・阪神岩屋・各美術館前



Solution MAP



- ①道路舗装：カラーアスファルト溶着舗装（神戸は六甲山と海に囲われた街、シンボルカラーはブルーグリーン）
 - ・学校前道路面に緑色でスクールゾーンを明示するように、ミュージアムロードを統一したブルーグリーン色でアスファルト溶着カラーリングする仕様です。
 - ・JR 灘駅で南北のミュージアムロードが一旦分断することになりますが、この共通のカラーリングにより連続した一体感を認識することに有効です。
 - ・灘のだんじり祭りや秋のアートウィークにはカラー舗装エリアは歩行者天国に変わり、ドライバーにはその期間の注意喚起を促せるようにした構想です。
- ②夜間LED照明計画：共通したブルーグリーンの光で、南北のミュージアムロードを魅力的に演出
 - ・10年かけてビジョン実現のため整備継続する方針とし、出来るところから既存樹にLED豆球を小枝の先まで散らばせ夜景街並の美観を整える計画です。
 - ・JR 灘から阪神、国道2号線までの南北路は道幅が狭く両側に並木を整備することは困難であることから並木道の実現のため片側通行に変更を推奨したい。
- ③美術館の展示情報発信ボードの設置：★Infomation 毎日アップデート（JR 灘駅・阪神岩屋駅前、2つの美術館前に配置）
 - ・資源を循環させエネルギーと環境負荷を最小化し、社会全体で持続可能性を高める取組みとして、ソーラー発電仕様とした液晶自立型サインを設置します。
 - ・常設展示と企画展示の内容を毎日作品の一部を写真でアップし更新することで飽きのない新鮮な情報源として地域を盛りたてることに貢献します。



夜



夜



昼



昼



Scenery

■ 南端地点は川にたとえるなら川下で川幅も広くゆったりと時が流れる様をイメージ化。夜景の光の束は、水平面に広がりを見せ、穏やかな風景を切り取ります。美術館巡りは近代建築では建築家 村野藤吾の審美性と現代建築では安藤忠雄の創造性を体感。

■ 中央ゾーンは JR 線で南北路は一旦分断されるが床舗装が同じカラーとイルミネーションが共通のサインで一体性を演出し繋がる。駅南は片側通行とする事で秋に紅葉の美しい並木道を作り、駅前待合広場でだんじり祭りの終点広場にするなど、賑やかな神戸らしい景色を創出。

■ 北ゾーンは阪急高架のアーチをくぐったあたりから始まり、桜並木が美しい通り。川上の坂道はだんだんと勾配が急となり公道のカラーの景色が下からよく見える。桜並木道のトンネルを通り、アート巡りへ誘い、大人の落ち着いた雰囲気演出。